

達成度：R3.3.31 の自己評価

- 5 目標を完全に達成した。
- 4 目標を概ね達成した。
- 3 目標を一部達成した。
- 2 目標をほとんど達成できなかった。
- 1 目標をまったく達成できなかった。

こども課の目標（令和2年度）自己評価書

こども課長 川口 博之

個別事業とその目標	達成度	目標達成の効果又は達成できなかった理由等
<p>1 学校施設設備の整備（庶務班）</p> <p>学校の教育用機器（統合型校務支援システムの導入・GIGAスクール構想に基づく教育ICT環境の整備）の整備及び老朽化による施設の整備や修繕が必要なことから、順次、整備や修繕を行い良好な教育環境の提供に努めます。</p> <p>2 放課後児童クラブの運営（子育て支援班）</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止対策による小学校休校要請に伴い、保護者の保育の必要性に応じ対応を可能とするため、町内にある学童クラブと常に情報を共有しながら、安全な保育に努めます。</p>	<p>5</p> <p>5</p>	<p>学校の教育用機器の整備については、文科省によるGIGAスクール構想の実現に向け、小中学校児童生徒1人1台の端末整備（購入・設定・配備）、小中学校内のWi-Fi環境整備（無線アクセスポイントの設置、災害時に備えた体育館へのWi-Fi環境整備など）を行ったほか、小中学校に教職員用校務支援システムを導入し、児童生徒の学習等活動記録の一元化・システム化を図り、併せて教職員の勤務条件の改善に取り組みました。</p> <p>また、施設整備においては、チャレンジ目標に掲げた中学校屋内運動場の大規模改修工事及び中学校テニスコート整備工事を計画どおり実施したほか、老朽化に対応するための各種メンテナンスを実施しました。</p> <p>公立学童については、保護者への利用自粛要請や、現場への感染防止策等の情報共有により感染者を出すことなく安全な保育を提供できました。</p>

<p>3 酒々井町奨学資金補助条例の改正（子育て支援班） 新型コロナウイルス感染拡大防止策による職場の休業要請に伴う家計の減収への影響を鑑み、現行条例を見直します。</p> <p>4 地域子ども・子育て支援事業の推進（子育て支援センター） 「子育て支援センターあいあい」を拠点とし、専門的な知見と利用者目線の双方の視点から、切れ目のない支援を実施するため関係課との連携を図り、利用者が利用しやすい施設の運用に努めます。</p> <p>チャレンジ目標</p> <p>1 酒々井中学校整備事業（庶務班） 酒々井中学校屋内運動場は老朽化が著しいことから、国庫補助金事業として改修工事を行います。また、テニスコートは、財源を確保したうえで、移設整備を行います。</p>	<p>5 酒々井町の子どもたちが安心して高等学校等に進学できる給付型の準備金を用意するため、現行条例の改正を行いました。</p> <p>5 新型コロナウイルス感染拡大の影響で地域子育て支援拠点事業の利用者数や利用者支援事業の相談件数は減少しましたが、乳幼児とその保護者の交流促進や育児不安の軽減が図られました。また保健センターとの連携により、マタニティ・ママパパークラスの一部をあいあいでも実施し、妊娠期からの施設利用を促進しました。</p> <p>ファミリー・サポート・センター事業では、昨年度より会員数は増加しましたが、実施件数は減少しました。</p> <p>地域子育て支援拠点利用者（あいあい）延べ3463人 （しょうえんこどもこそだてルーム）延べ348人 利用者支援事業 相談件数 464件 （巡回相談：保健センター乳幼児健診時年7回・しょうえんこどもこそだてルーム年2回実施）</p> <p>ファミリー・サポート・センター事業 利用会員61名 協力会員22名 両方会員6名 実施件数27件</p> <p>長年の懸案事項であった酒々井中学校体育館の大規模改修を実施しました。今回の改修により、中学校生徒・教職員及び学校開放等で使用する利用者の安全で快適な環境が確保されるとともに、学校施設の長寿命化が図られました。また、グラウンド拡張事業の一環として、中学校テニスコートの移設（新設）工事を実施しました。今回の整</p>
---	--

	<p>備により、部活動の競技力向上が期待されることはもとより、スポーツ団体への開放を今後行っていくことにより、広く町民が利活用できる生涯スポーツ施設を確保することとなりました。なお、いずれの事業においても、国庫補助金や助成金の交付を受けたうえで、有利な起債を活用するなど、歳出の抑制を図りました。</p>
--	--